



NO.1023

2015・6・14

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三・四四五八
F 四三・四四五七



戦争法案阻止のための集会

準備会参加の申し入れを行う

暴走する安倍政権は、昨年行った集団的自衛権行使容認の「閣議決定」を具体化する安全保障関連法案を今国会に提出して、「数の力」で押し通そうとしています。

これらの法案は、今迄の国会審議の質疑の中で、他国への攻撃でも集団的自衛権の行使が可能になると。地理的制約を撤廃して世界中どこでも軍事支援が行えるなど、自衛隊をあらゆる戦争に参加させることが明らかになりました。

さらに、過日行われた衆院憲法審査会では、自民・公明の与党も含めて合意した憲法学者3人の参考人すべてが戦争法案が「違憲」の判断を示し、法案の違憲性が鮮明になりました。

しかし、中谷防衛大臣は、「現在の憲法を法案に合わせた。だから違憲ではない」という適応発言で、憲法の上に法案をおく、おどろくべき逆立ち答弁で憲法学者の違憲発言を敵視続けています。

こうした安倍政権の策動に対して、直近の世論調査で法案そのものに反対する人や、今国会での成立に

反対する人が多数になっています。不安と批判の高まりのなかで反対の声が草の根から広がり、全国的には各地で超党派の「戦争法案阻止」の取り組みが大きくなっています。

網走市においても、安全保障関連法案（戦争法案）に対し、不安と懸念を示している市民は少なくありません。

そうした市民の声に応えるために、団体・個人が安全保障関連法案（戦争法案）反対の一点で共闘する必要があると考え、戦争法案反対網走市民集会（仮称）準備会の開催の案内を各団体に申し入れを行っています。

読者のみなさん、戦争法案阻止のため、ぜひ準備会にご参加ください。

「安全保障関連法案（戦争法案）反対網走市民集会」（仮称）準備会

日時 6月26日（金）午後6時

場所 北2条西3丁目

エコーセンター3階 学習室

菊地ひろし まっしぐら！

「自然を見つめ、命と暮らしを大切に物作りをしている人達」の「この市」に今年からメンバーとして参加しています。今年最初の小さな「市」が7日に開かれました。私も「木彫りの猫」を出店しましたが、新鮮な野菜や元気な卵、蜂蜜や味噌のおいしさにはかきません。何よりひとつからでも、量り売りでもokなのが受けているのかもしれない。

メンバーの子供たちが花摘みや、冒険ごっこを楽しんでいる姿をのんびり眺めながら、ふと頭をよぎりました。「少し前に沖縄海兵隊が本土で行う実弾演習を警備するために警察官が使用すると言われて、体育館で予定していた市民の行事が中止された例があった。」「今審議されている『戦争法案』が成立でもしたなら、「存立危機事態」だと判断すれば、何事も軍事優先になり公共施設使用の制限や、民間の物資収容や、従事命令だつて起こり得る」のだと：

松浦有哉も？

安倍政権は生活保護費を削減する姿勢を強めています。

2013年度から15年度にかけて生活扶助費総額740億円を段階的に削減しています。これにより受給世帯の9割以上が減額になりました。加えて、住宅扶助費が15年度から18年度まで総額190億円（15年度は約30億円）の削減、冬季加算は今年10月から約30億円削減することになりました。

特に大変なのは冬季加算で、これまで1人月額19890円（11月から3月まで）であったのが、今年から10月から4月までに期間が延びたのですが、支給額が1人月額12540円と月額7350円も削減されるのです。灯油代1割当たり100円としても月に125割しか使えませんから1月2月の寒い時期は到底足りません。弱者をいじめ、大企業にはやさしい安倍政権の政治は許せません。

氷流

私が今、最も愛し逢いたいと思う人を紹介しましょう。彼の名は畑田重夫さん（国際政治学者）92歳。彼は東

に召集され多くの友を失ったが自身は砲弾を潜り抜け生還しました。戦後新憲法が発表され人生観も世界観も大きく変わり、勤めていた大学教授の地位や金銭的に恵まれた道も選択せず「どんな時も自分自身に納得できる生き方を」と憲法と共に、民衆と共に生きる道を選びました。高年齢にかかわらず背筋をピンと伸ばし長時間の講演で世界に誇る日本国憲法の素晴らしさを熱く語ります。そんな先生との出会いは25年前ですが、その後先生著の「書憲のすすめ」で憲法を書きながら学習する機会があり、先生の指導を受けたのが縁で私の最も敬愛する人となりました。先生は講演の最後に必ず「健康に留意し一日でも一時間でも元気で長生きして平和と民主主義と社会進歩に貢献し続けたい」と決意をのべられます。その言葉と意思に励まされます。▼これを書いていた朝、憲法研究者173人が「戦争法案反対」の声明を発表したことをしんぶん赤旗で知りました。全文は書けません。が「憲法上多くの問題点をはらむ安保関連法案を国会は速やかに廃案にすべきである」と明確にいつてます。▼「米寿、白寿」につづき「盤寿」つてあるそうですがこの言葉何となく、今の暴走政治の下では安穩と消え去ることも結ぶこともできず声を上げるのみです。（U）